

北播磨社会福祉連合会

1. 支援活動実施の概況

当地域における被災者支援活動については、主として北播磨社会福祉連合会が、関係機関からの情報提供、支援事業実施依頼等に基づき、支援事業の概要を立案し、地区内各町社協の意見、意向を集約して事業計画内容の細部を決定のうえ、各町社協との共同事業として実施している。

7年度の支援活動は、地区内全社協で共同実施したものが2事業、町社協が単独で実施したものが1事業（ただし材料費等は郡社協が一部負担）、町社協が町内他団体と共同で実施したものが1事業であった。

2. 各支援活動実施の詳細

【西宮市鳴尾浜ふれあいセンター開設記念野菜青空市】

県社協からの情報提供及びコーディネイトにより、9月16日西宮市鳴尾浜ふれあいセンターの開設に合わせて、野菜等の青空市を実施することとし、仮設住宅に関する詳細な情報については、西宮市社協と綿密に連絡をとり、現地の事前調査も行った。

また、これと並行して各町社協事務局長、専門員、ボランティアコーディネーター等による支援活動打合せ会議を開催し、野菜等の調達については、各町ごとに無理なくできる範囲で集めることとし、1町あたりダンボール5箱を目安として地域住民・企業等に協力を呼びかけたところ、予定量の2倍以上にもものぼる新鮮な野菜・果物等を、大部分は無償提供により、一部は原価による購入によって集荷することができた。

袋詰め、値段の設定等の準備作業は、前々日各町スタッフが北播磨福祉事務所に集合し、集荷物を点検しながら実施したが、価格は最高でも市価の半額、物によっては1/5程度の価格設定となるよう、スーパーのチラシ等を参考に、仮設住宅の高齢者世帯が買いやすいように、1袋あたりの量と値段を決めた。

当日は早朝から大型ワゴン車2台、小型トラック1台に野菜等を満載して出発、現地には9時頃到着した。ふれあいセンターの関係者等に挨拶をすませると、さっそくテントの設置、品物の陳列、値段表の掲示等の作業を開始し、現地スタッフ（地元社協職員等）の応援もあって、10時には手際よく準備が完了した。

10時から「鳴尾浜ふれあいセンター」の開所式がはじまり、テント付近にも仮設住宅の住民の方がかなり集まってこられたが、セレモニーが終わるまで待っていただいた。

10時30分に青空市を開始すると、待ちかねた人々から矢つぎばやに注文が殺到し、最初の10分程は販売スタッフが慣れないこともあって少々混乱したが、買物客どうしの自発的な譲り合い、販売スタッフに対する好意的な協力もあって、すぐにスムーズにさばけるようになった。

北播磨平野の肥沃な畑からとれたばかりの新鮮な野菜類は、ナス、クマネギ等のポピュラーなものばかりではなく、都会ではなかなか手にはいかない黒豆、ずいき、みょうが、地鶏の有精卵等、品ぞろえは豊富であり、どれも大変な人気でたちまち売り切れるものが続出した。

当日は、朝から雨が降ったり止んだりのぐずついた天気であったが、当仮設住宅は商店街から遠く離れており、また、高齢の入居者が多く、青空市はおおいに喜ばれ、大変に盛況であった。なかには、ご近所の高齢者のためにと、何度も買い出しにこられる方もあったので、仮設住宅内の方には、手あきのスタッフが配達サービスをかけてきた。

12時にはほとんど完売となったので、テントをたたんで後片付けを済ませ、ふれあいセンターの皆さんと一緒に昼食をとりながら意見交換等で交流をはかったのち、13時頃帰途につき、15時には全員無事に出発地に帰着し、本日の支援事業は完了した。

なお、今回の支援事業については、各町社協だより等により、協力いただいた地域住民の皆様にお礼方々報告した。

【明石市内仮設住宅「ふれあいセンター」もちつき交流会】

東播磨県民局からの標記支援事業実施提案（依頼）に基づき、12月8日北播磨社会福祉連合会役員会において鋭意検討した結果、12月24日明石市内の仮設住宅ふれあいセンター2カ所て「もちつき交流会」を実施することを決定、加東郡の3町社協は明石公園、多可郡の4町社協は大久保の東原仮設住宅をそれぞれ担当することとし、さっそく関係機関等との連絡調整を開始した。

支援対象の仮設住宅は2地区で372戸もあり、支援事業に必要な材料、資材、車両、スタッフ等が相当数量になることから、広く地域住民・団体等に協力をはたらきかけることとした。これと並行して、当該ふれあいセンターの代表者とそれぞれ連絡をとり、もちつき交流会に関する要望、役割分担等について詳細に打ち合わせた。

各町社協会長が先頭にたって協力要請にあたった結果、JA加東郡、JA北はりまから協力の申し出があり、それぞれ無償で必要量のもち米の提供があった（加東郡90kg、多可郡100kg）。ほかに、臼、杵、蒸し器、プロパンガス等準備しなければならない資材、材料は多種多様で、その大部分を各町地域住民・団体・企業等の好意と積極的な協力により、ほとんど無償で調達することができた。

当日は各町ごとに早朝から出発、8時30分に現地集合することとし、到着順に準備を進めた。雨や雪こそふらなかったものの、当日は朝から寒風が吹き荒び、強風でせいろを蒸すためのコンロの火がすぐ消えてしまうので、テントの周囲をベニヤ板やダンボール

で困り、なんとか火を絶やさないようにするような始末であった。しかし、スタッフ・ボランティアの熱意と創意工夫により、開始時間の10時までには、すべての準備が滞りなく完了した。

予定どおり10時から、主催者挨拶など簡単なセレモニーをすませ、さっそくもちつきにとりかかり、会場のあちこちから威勢のよい掛け声とともにペタン、ペタンと杵を搗く音が響いてきた。

天候がいまひとつなので、セレモニーのときには高齢者を中心に50～60人程度の集まりぐあいだったが、最初のもちがつきあがるころには、いつのまにか子どもづれの若い人たちも出てきており、急ににぎやかな雰囲気になった。

各町ごとに1臼を配置し、次々にもちをつきあげるので、会場の皆さんはおろし醤油で、たべたり、きなこをまぶしたりと、思い思いに舌鼓をうって、日頃の不自由やつらさを一時忘れて楽しいひとときを満喫しているようであった。

もちつきも3臼めくらいになると、食べるばかりでは物足りない、飛び入りで杵を持つ人たちが始め、なかには「何十年ぶりに杵をもちます」といって、70歳前後ではないかと思われる小柄なご婦人が、力強く、それは見事な搗きようだったので、周囲にいた人たちは皆称賛の声を上げ、盛大な拍手を送った。このほか、「生まれて初めて杵を持つ」という体格のよい青年も腰の座ったよい搗き方で、とりまいた人たちから拍手を受け、気持ちよさそうに額の汗をぬぐった。

このように、被災者とボランティアの交流は和気あい合いと進み、会場のあちこちでは、子ども同士、高齢者同士、子どもと高齢者、若者と高齢者など様々なスタイルで、普段はあまりみられないような、コミュニケーションの輪が広がった。

12時頃にはすべてのもちつきをおわり、後片付けをすませてから、ふれあいセンターの皆さんにお礼の挨拶をすると、皆さんはふれあいセンターに鏡餅を飾れたことを大変喜ばれたので、スタッフ・ボランティア一同は清々しい気持ちで帰路につくことが出来た。

(もちつき交流会)



支援状況

北播磨社会福祉連合会

支援地区名	日 時	支 援 内 容	8年度への課題・展望
西宮市鳴尾浜仮設住宅 ふれあいセンター	H7. 9. 16 (土) 10:30～12:30	野菜青空市 (ふれあいセンターオープニングイベントとして実施) ・ 仮設住宅数...480戸 ・ 販売人数...約200名 ・ 販売数...各町みかんダンボール5～10箱 ・ 販売品目...仕入れ (特産品) を含む無償提供野菜約30種類 ・ 派遣人数...10名 (社協職員7名、福祉事務所職員3名)	
明石公園仮設住宅ふれ あいセンター 大久保東原仮設住宅ふ れあいセンター	H7. 12. 24 (日) 10:30～13:00	もちつき交流会 ・ 仮設住宅数...明石公園仮設154戸 (加東郡担当) 大久保東原仮設218戸 (多可郡担当) ・ もち米提供先...加東郡農協90kg 北はりま農協100kg ・ 道具一式準備...各町社協 (手づき用5セット、機械づき用2セット) ・ もちつき回数...明石公園杵づき3か所×4回 大久保東原 杵づき2か所×4回 機械づき2か所×4回 ・ もちパーティー...おろしもち、きなこもち、ぜんざい等 ・ 参加人数...各約150名程度 ・ 参加派遣人数...51名 (内ボランティア26名)	

川端仮設住宅（明石市）ふれあいセンター	H7. 12. 12（火） 13：30～15：30	しめなわづくり ・仮設住宅数...100戸 ・参加人数...30名 ・材料提供先...東条町内の農家から無償提供 また、持参した手作りのしめなわを100個プレゼント ・参加派遣人数...4名（内指導ボランティア2名）	
---------------------	------------------------------	---	--

西宮市瓦林ふれあいセンター	H7. 11. 5（日） 10：00～14：30	野菜青空市と交流会（加美町老人会連合会と共催） ・仮設住宅数...100戸 ・販売品目...40種類 ・販売量...2 t 車2台 ・販売価格...50, 100円均一 ・派遣人数...40名 ・手作り手芸品等配布...手芸品、手紙（一般15通、中学生100通）を老人世帯に運営委員とともに配布 ・芸能披露...日本舞踊、手品、尺八、詩吟、加美町音頭等 体験交流	
---------------	-----------------------------	---	--

中播磨地区社会福祉協議会連合会支援状況

支援地区名	日 時	支 援 内 容	8年度への課題・展望
姫路市内4ヶ所 仮設住宅 玉 手 新白浜 御国野 南駅前	H. 7. 6. 12 12. 27	<ul style="list-style-type: none">・中播磨管内で採れた野菜の「野菜市」を開催 キャベツ、じゃがいも、大根、おもち等・参加者 ボランティア、各町社協職員15名・各戸にみかん1箱ずつを配布 中播磨管内・姫路市在勤職員歳末愛の預託運動と協力し行う・参加者11名	引き続き、姫路市内4ヶ所での青空市を開催予定管内各町の支援事業の連絡調整を行っていききたい。

宍粟郡社会福祉連合会支援状況

支援地区名	日 時	支 援 内 容	8年度への課題・展望
神戸市北区藤原台 (有野小学校)	H. 7. 10. 13	神戸市北区社協との打ち合せ	仮設住宅に庇を取り付けるため、大工ボランティアを派遣。 「野菜の青空市」のほか、「もちつき大会」「そうめん流し」等を、現地のイベントに合わせて実施する予定。
	10. 23	宍粟郡内5町社協と取り組みについて打ち合せ	
	11. 11	<p>現地でのイベント「げんき！いきいき秋祭り」の一環として『野菜の青空市』を開催した</p> <p>宍粟都内で採れた野菜を、仮設住宅入居者に安価で販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野 菜 大根、白菜、ネギ、人参、さつまいも等 10種類 750点 ・参加者 ボランティア 10名、各町社協職員 10名 郡社協職員 4名 計 24名 	

西播磨福祉地区社会福祉協議会支援状況

支援地区名	日 時	支 援 内 容	8年度への課題・展望
須磨区社協	H7. 10. 25 午前中	県社協1名、神戸市社協1名、須磨区社協1名、西播磨福祉地区社協 6名 計9名により事前打ち合わせ会を行う	
菅の台仮設住宅	H7. 10. 25 午 後	菅の台仮設住宅ふれあいセンターにて9名と、仮設住宅の自治会副会長と、打ち合わせをして具体的な内容（要望）等を決める	
西播磨福祉地区支援活動打ち合わせ会 龍野総合庁舎	H7. 10. 30	西播磨管内9町の事務局長に対して、被災地の状況等を説明し支援活動の内容を検討し、野菜市開催を決定	
菅の台仮設住宅	H7. 11. 12	西播磨福祉地区より10名で、2t車1台・軽トラック1台・ライトバン1台で行き、野菜市を午前11時より開催。 野 菜...キャベツ、白菜、大根、にんじん、玉ネギ、サツマイモ、じゃがいも、きゅうり、ピーマン、しいたけ、しめじ、ブロッコリー、チンゲンサイ、ネギ、ホーレンソウ、柿など	
北落合仮設住宅	H7. 11. 12		
神の谷仮設住宅	H7. 11. 12		

北但社会福祉協議会連合会

1. 支援の取組みの経過

震災直後から、管内の各町社協は炊き出しや救援物資の収集など、積極的な支援活動を展開していた。県社協からの要請により入浴サービスにも出かけた。また、北但・豊岡ブロックで宝塚市社協に、但馬ブロックで西宮市社協に対して、3泊4日のローテーションを組み支援を続けた。

4月15日でブロック支援が終了し、被災地も徐々に落ち着きを取り戻しつつあるとはいえ、悲惨な状況に置かれている被災地の人たちに対して支援をする必要があるとだれもが思っていた。各町の社協から「何かできることはないだろうか。何かしようよ。」の声が聞こえてきた。仮設住宅で暮らす人たちの置かれている状況や要望などを把握し、現地の社協とも協議するため、現地調査することに決め、8月31日にブロック支援でつながりのあった宝塚市へ、各町社協のボランティアコーディネーターが出向くことにした。

突然、県社協から8月27日の西宮市のふれあいセンターのオープニングセレモニーに青空市を開いてくれないかとの要望が舞い込んだ。宝塚市へ調査に行くことを決めた直後のことだったため、一瞬の戸惑いはあったが、被災地の人たちの役に立つならと、喜んで協力することにした。

8月31日の現地調査の結果を受け、9月7日に社協会長、事務局長による打合せ会を開き、

- 1 宝塚市の仮設住宅を中心として支援活動を行う。必要に応じ、他市への支援も行う。
- 2 宝塚市社協と日程、内容を調整のうえ、月1回程度実施する。
- 3 1回につき、原則として2町社協で対応する。
- 4 当面、青空市や炊き出しなどのイベントを実施する。
- 5 青空市などの売上金は支援活動の経費及び義授金に充てる。

等の方針を決め、長続きする支援活動をしていくことにした。

・支援内容

震災直後、管内の町社協は入浴サービスや給食サービスなどの在宅福祉サービスの分野で協力したいとの考えが強かった。県社協からの要請を受け、単発的に入浴サービスに出かけた町社協はあったものの、ニーズを把握することが難しく、被災地で継続して在宅福祉サービスを実施することはできなかった。ブロック支援先の宝塚市社協に出向いていた職員から被災地の状況やニーズを逐次報告を受け、在宅福祉サービスの分野で支援ができないか検討を続けたが、結果として在宅福祉サービスを実施することはできず、上記の方針による支援活動をすることにしたものである。

前述のとおり県社協の要請を受け、8月27日に、西宮市枝川町の仮設住宅ふれあいセンターのオープニングセレモニーで青空市を開いたのが、北但社協としての最初の支援活動となった。高齢者が多く約700戸の仮設住宅ときいていたものの、どのぐらいの数量が必要か検討がつかなかったが、各町社協が農家から無償で提供してもらったり、原価で仕入れるなどして手配した、じゃがいも、かぼちゃ、たまねぎ、ピーマン、きゅうり、モロヘイヤ、なし、すいか等の野菜や果物、岩のり、わかめ、するめ等の海産物をリフトバス2台に積み込んで、10時のオープニングに間に合うようにと朝早く出かけて行った。無償提供の野菜は一律100円、海産物は仕入原価で買っていただくことにして、テントを張って袋詰めをしていると多くの人だかりができた。

宝塚市へは10月22日、市立西公民館で市内の全仮設住宅を対象に開催された「秋の心祭」で野菜や海産物などの青空市を実施したのをはじめ、ふれあいセンターのない小規模な仮設住宅には目が行き届かないだろうと、野菜や海産物を積んで巡回もした。また、被災地でのイベントにあわせて、もちつきやぜんざい、出石そばの炊き出しもした。もち米をむすのに、そばをゆでるのにどれくらい時間がかかるか、どのように作業を進めればうまくいくかなど事前に十分練習をして臨んだつもりでも、当日、雪のため現地到着が大きく遅れたり、火力が弱くてできあがりまでに思わぬ時間がかかったり、待っている人たちに迷惑をかけたこともたくさんあった。

芦屋市社協からは、「仮設住宅の子供たちのこころのリフレッシュのために雪を持ってきてほしい。」との要請が入った。この冬は例年になく雪がたくさん降ったが運搬手段がない。各町社協に相談を持ちかけたところ、「行こう。」の一言。2月18日、各町社協が手配した2トントラック5台に雪をいっぱい積み込んで、一路、芦屋中央公園仮設住宅へ向かった。積み上げた雪で、そり遊びをする子ども、雪だるまをつくる子ども、思い思いに遊ぶ姿をみながら、「こんなに無邪気な子どもの姿をみるのは地震以後初めてだ。」とだれかが言った。

2. 課題等

支援活動を通して、何かと手を煩わせることが多いにもかかわらず、親切に対応いただいた宝塚市社協はもちろん、コープボランティアやフェニックスステーションなど被災地の多くのボランティアグループとも連携がとれたことは大きな成果である。

活動の中で、多くの人たちとの話しをすることができたことも大きな成果である。「新鮮な野菜が手に入らないんです。ありがとう。」と言ってくれたひとり暮らしのおばあちゃん、仮設の暮らしはつらいでしょうががんばってください。「出石に行った時、一度だけ食べました。おいしいですね。」とそばを食べていたおかあさん、また遊びに来てくださいよ。「香住から持ってきてくれた

のか。酒のあてにする。」とするめを買ってくれたおとうさん、飲み過ぎないように。「雪を食べたら10年長生きできるんだ。」と雪をなめていたおじいちゃん、溶けないようにと塩で固めた雪でごめんなさいね。「こんなにたくさん雪、初めて見た。」とはしゃいでいた子どもたち、但馬は背の高さより高く雪が積もるんだぞ。このような、何げない会話の中で被災地の人たちとふれあいが持てたような気がする。

また、青空市のための野菜や海産物の仕入れについては、農家や水産業者等のこころよい協力を得ることができたと、ぜんざいや出石そばの炊き出し等ではボランティアの積極的な参加を得ることができたことも成果のひとつである。

北但社協、各町社協とも、できるだけことはしてきつつもりであるが、一方で、支援活動というものの、やってきたことが被災地の人たちにどれだけ役に立ったんだろうかと思うことがある。青空市を何度も繰り返すことが、被災された人たちの自立支援になるのだろうか疑問に思うこともある。

しかし、北但社協、各町社協に限らず、だれもが今なお、自分たちにできることはないんだろうかとの気持ちを持ち続けている。被災地のニーズを正確に把握するため、被災地の社協や活動グループと協議をしながら、被災地の人たちとこころこころでふれあいながら、「さすがに社協だ。」といわれるような支援活動を続けていきたいと思っている。



支援状況

北但社会福祉協議会連合会

支援地区名	日 時	支 援 内 容		8年度への課題・展望
西宮市 枝川町仮設住宅	H7. 8. 27	青空市 (野菜・海産物)	8名 (竹野3出石1但東3北但1)	
宝塚市 小林公民館	H7. 10. 22	青空市 (野菜・冷凍魚・たまご・ 授産品)	8名 (城崎2竹野2香住2出石1北 但1)	
宝塚市 雲雀が丘仮設住宅 他9か所	H7. 12. 3	青空市 (野菜・冷凍魚) 炊き出し (つみれ汁)	20名 (竹野10日高8北但2)	
宝塚市 鹿塩2丁目仮設住宅 他13か所	H7. 12. 21	青空市 (野菜・冷凍魚・出石そ ば)	7名 (城崎4香住2北但1)	
宝家市 高司4丁目仮設住宅	H8. 2. 10	青空市 (野菜) 炊き出し (出石そば・ぜんざい・餅 つき) 仮設住宅入居者の話し相手	23名 (出石10但東11北但2)	
芦屋市 中央公園仮設住宅	H8. 2. 18	子どもたちへの雪の贈り物 2tトラック5台	20名 (城崎2竹野6香住1日高2北 但1北但福祉2豊岡児相6)	
宝塚市社会福祉協議会	H8. 3. 26	義援金		
西宮市社会福祉協議会	H8. 3. 26	義援金		

美方郡社会福祉協議会連合会

【新鮮野菜の即売会の実施】

平成7年10月、中央区社会福祉協議会から兵庫県社会福祉協議会を通じて、11月3日（金）、神戸市中央区のポートアイランドにおいて、仮設住宅（約1,900戸）の住民を対象に開催される「ポー愛ふれ愛秋祭り」に参加し、「新鮮野菜の即売会」を実施してほしいとの依頼を受けた。

美方郡では、平成7年度以降、被災地への支援活動を行っていなかったため、美方郡社会福祉協議会連合会と郡内各町社会福祉協議会（村岡町、浜坂町、美方町、温泉町）との協議の結果、合同で実施することにした。

10月中旬頃から、各町社会福祉協議会を通じて、チラシや有線放送などで町民の方々に新鮮野菜や米などの無償提供を呼び掛けた。当初は、どのような野菜がどれだけ集まるのか全く予想がつかず、不安であった。しかし、前日、寄せられた野菜は、予想をはるかに上回り、大量の野菜等が寄せられ、結果11tトラック2台分と3tトラック1台分になった。

この野菜全てを「ポー愛ふれ愛秋祭り」の即売会だけで処理するのは、とても無理であるとのことで、急きよ、神戸市北区と加古川市の仮設住宅を紹介していただき、当日は、3か所で野菜の即売会を実施し、市価の半額以下で販売した。

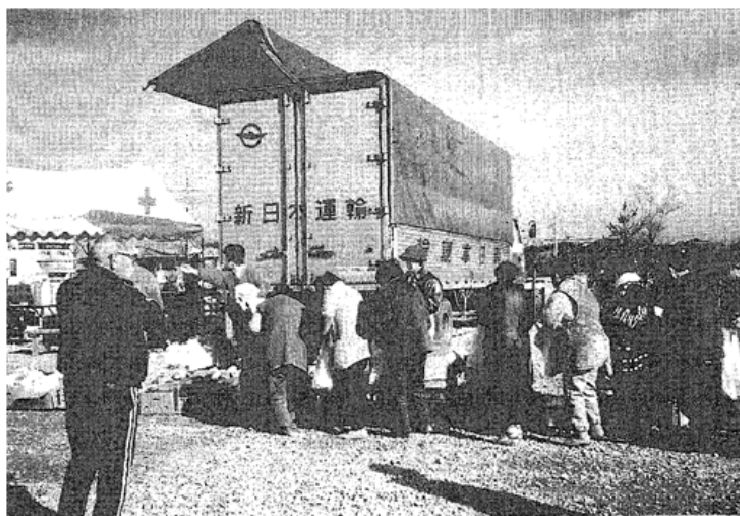
野菜等の種類	白菜、大根、ネギ、一本ネギ、にんじん、キャベツ、玉ねぎ、里いも、じゃがいも、さつまいも、ほうれん草、春菊、米、もち米、ピーマン、かぼちゃ、そうめんかぼちゃ、ブロッコリー、なす、豆類、すだち、落花生、長いも、杓子菜、かっぱ菜、かぶら、赤かぶ、チンゲンサイ、はやとりのり、ごぼう、梨、りんご、柿、梅干、じねんじょ、野沢菜、砂糖、缶詰、切り花、鉢植えの花、その他
--------	--

上記のように何十種類という善意の野菜等が寄せられた。特に、白菜、大根、ネギ、じゃがいもは、時期的にたくさんあり、被災者の方々には、青物野菜、米が人気で、特に米はすぐに売り切れてしまい、「今度来る時は、もっとたくさん米を持って来てください。」と多くの方々からの依頼があった。

このように即売会自体は大盛況であったが、寄贈された量が多かったため、ポートアイランドと北区では白菜、大根、じゃがいも、かぼちゃなどが残ってしまった（加古川市での即売は全て売り切れた）。しかし、ポートアイランドでの残分は、神戸市のボランティアグループ「ちぶくる救援ぐるうぷ」へ寄贈し、公園でテント暮らしをしている方々の食糧に充てていただいた。そして、北区の残分は、自治会の方が「白菜、大根を漬物にして、入居者やボランティアの方々に配りたい」とのことで、全てお渡しした。

売上金は、全て被災者の方々に役立てていただくため、中央区社会福祉協議会、北区社会福祉協議会及び東加古川団地自治会にそれぞれ義援金として寄贈した。

美方郡では、今後もこのような支援活動を継続したいと考えているが、このことに加えて、被災者の方々へは、「心のケア」も重要であることから、今後はむしろ「心のケア」を中心として支援活動についても考慮し、実施していかなければならないと考えている。



震災1周年が近づくとつれて、何か取り組みをしなければと職員と協議した結果、昨年11月3日に美方郡4町の社協で実施した野菜の格安販売を引き続き北区藤原台第1仮設住宅で行うことに決定した。

幸い、予算も「災害支援活動費」を計上しており、理事会で協議の結果、理事数人も参加することとなった。さらに、ボランティアとして浜坂地区婦人会や町職員の協力を得て、いわしの団子汁といかの姿焼きを無料提供することとなった。

1月20日好天に恵まれ、11月3日以来約2ヶ月半ぶりに藤原台の被災者の皆さんと再開した。

笹山孝一自治会長を中心にミーティングの後、各自が分担通り作業を開始した。

約1時間で、白米、もち米1,000kgと白菜、大根、キャベツ等520kg、又、いわしの団子汁、いかの姿焼きそれぞれ300食が終了した。

寒くもなく、好天のせいもあって、被災者の皆さんから笑顔がこぼれていた。

数日後、撮影したビデオを見ながら反省会を行った。

平成8年度も引き続き支援活動を実施することとし、今後は、個々のニーズに応じた支援活動をすること、又、将来は、藤原台仮設住宅の被災者の皆さんと浜坂町との交流ができるよう方向づけをすることで締めくくった。

支援状況

美方郡社会福祉協議会連合会

支援地区名	日 時	支 援 内 容	8年度への課題・展望
神戸市中央区 ポートアイランド仮設住宅 (1,900戸)	H7. 11. 3 12:00~17:00	ポートアイランドで開催された「ポー愛ふれ愛秋祭り」に参加し、新鮮野菜の即売会を実施した。 ・参加者...村岡町 6名、郡社協 2名 計8名 ・野菜の量...11tトラック1台分 ・野菜の種類...大根、白菜、ネギ、にんじん、じゃがいも、玉ねぎ、さつまいも、里いも、キャベツ、ほうれん草、春菊、チンゲンサイ、米、もち米、ピーマン、かぼちゃ、など全40種類 売上金(438,420円)は、全て被災者の方々に役立てていただくため、中央区社会福祉協議会へ義援金として寄贈した。	
神戸市北区藤原台 第1. 5. 6仮設住宅 (594戸)	H7. 11. 3 11:00~15:00	「ポー愛ふれ愛秋祭り」で野菜の即売会を実施するため、各町町民に野菜の無料提供を呼び掛けていたが、予想以上に多く寄せられたため、急きよ、北区藤原台仮設住宅でも即売会を行うことにした。 ・参加者...浜坂町 6名、温泉町3名、郡社協 1名 計10名 ・野菜の量...11tトラック1台分 ・野菜の種類...大根、白菜、ネギ、にんじん、じゃがいも、玉ねぎ、さつまいも、里いも、キャベツ、ほうれん草、春菊、チンゲンサイ、米、もち米、ピーマン、かぼちゃ、など全40種類 売上金(112,597円)は、全て被災者の方々に役立てていただくため、北区社会福祉協議会へ義援金として寄贈した。	
東加古川仮設住宅	H7. 11. 3 10:00~11:00	「ポー愛ふれ愛秋祭り」で野菜の即売会を実施するため、各町町民に野菜の無料提供を呼び掛けていたが、予想以上に多く寄せられたため、急きよ、東加古川仮設住宅でも即売会を行うことにした。 ・参加者...美方町5名 ・野菜の量...3tトラック1台分 ・野菜の種類...大根、白菜、ネギ、にんじん、じゃがいも、玉ねぎ、さつまいも、里いも、キャベツ、ほうれん草、春菊、チンゲンサイ、米、もち米、ピーマン、かぼちゃ、など全40種類 売上金(49,851円)は、全て被災者の方々に役立てていただくため、東加古川団地自治会へ義援金として	

		寄贈した。	
神戸市北区藤原台 第1仮設住宅 (浜夜町社協)	H8. 1. 20	<p>支援内容 (1) 白米、もち米 (約1, 000kg) の格安販売 (2) 野菜 (白菜、大根、ネギ、キャベツ、ジャガイモ等 (約520kg) の格安販売 (3) いわしの団子汁 (約300食) の無料提供 (4) いかの姿焼 (約300食) の無料提供</p> <p>参加者 (1) 社協役職員 14名 (2) 浜坂地区婦人会 10名 (3) 町職員 2名</p> <p>売上げ金212, 000円 (1月24日兵庫県社会福祉協議会震災復興本部へ送金)</p>	

(c)1997神戸市社会福祉協議会, 兵庫県社会福祉協議会阪神・淡路大震災社会福祉復興本部 (デジタル化：神戸大学附属図書館)

養父郡社会福祉協議会連合会

1. 養父郡内の支援の取組み経過と支援内容について

平成7年1月17日早朝に発生した「阪神・淡路大震災」は、養父郡においても今までにない激しい揺れを感じた。

震災直後の緊急支援として、郡内各町・団体では、義援金の募集、救援物資の募集・運搬、炊き出しなどが、同じ県民として、居ても立っても居られない気持ちの中で行われた。

養父郡社会福祉協議会連合会でも、従来は管内の社会福祉施設へ配分していた6月1日の「善意の日」一斉預託金を、少しでも被災者の生活支援に役立てていただこうと、4月、兵庫県に創設された「財団法人阪神・淡路大震災復興基金」へ送付した。

被災者の生活が避難所から仮設住宅に移り、被災地がようやく落ち着きを見せ始めた頃、兵庫県社会福祉協議会から復興支援活動助成の話があり、早速、6月の養父郡ボランティアセンター運営会議で、阪神・淡路大震災被災者への生活支援活動について話し合った。

支援活動するためには、まず、被災地の現状把握をしなければならないということで、各町のボランティアコーディネーター等が、現地に出向いてニーズを把握することになり、調査先を決めるうえで、県社協ボランティアセンターよりアドバイスをいただいた加古川市社協や、新聞に掲載された神戸市西区ボランティアセンターへ問い合わせた結果、加古川市では、すでにボランティアの活動体制が整っていて、新たにニーズ把握することはどうかと思われる、という返事であったため、神戸市西区を調査地とした。

7月3日、郡内のボランティアコーディネーター等6名で、神戸市西区ボランティアセンターを訪問し、所長の藤井氏に、仮設住宅でのボランティア活動の状況等説明をうけた後、西神第7仮設住宅へ向かった。

西神第7仮設住宅には、被災者を支援し、住民同志の交流を図ることを目的にボランティア活動の拠点「ふれあいテント」が設置されていた。

そこでは、看護婦を一時休職してボランティア活動をされている黒田裕子氏と出会い、活動内容を聞き、仮設住宅の室内を見せてもらった。そこで、タオル・雑巾・石鹸などの活動物資が全く不足していることなどを知った。

また、雨が降る中ずぶ濡れになりながら、数人の若者が、仮設住宅の水はけ処理に精を出している姿を見、生活支援活動の必要性をますます強く感じた。

7月10日、郡内のボランティアコーディネーター連絡会議で、被災者（地）訪問事業の基本方針を協議し、取り組めることから始めようと、まず各町社会福祉協議会からボランティア活動の支援物資を集め、7月14日「ふれあいテント」へ搬入した。

次に仮設住宅周辺は丈の長い雑草が繁茂しているため、養父郡で「草刈りボランティア」編成して行こうということになり、夏の暑い最中の7月28日、26名の草刈りボランティアが参加した。ひと休みしていると、入居の方が「氷片」を出して下さり、この氷のおいしさに、一時心が通じ合った気がしてうれしかった。

この後、大屋町社会福祉協議会では、刈り残しの草が気になり、お盆までにきれいにしたいということで、8月8日、再度「草刈りボランティア」として16名が参加した。

8月に入って、県社協ボランティアセンターから「阪神・淡路大震災仮設住宅改善のための大工ボランティア」の募集があり、養父郡社会福祉協議会連合会でも、大工さんがボランティア活動しやすいように養父郡建築組合連合会へ協力を依頼したところ、養父町社会福祉協議会では、西宮市へ9月4日に12名、10月6日に8名、関宮町社会福祉協議会では、神戸市西区へ10月26日に15名が参加した。

8月21日、郡内のボランティアコーディネーター連絡会議では、これまでの被災者（地）訪問事業の反省と今後の取組みについて情報交換を行った。

この後、関宮町社会福祉協議会では、10月29日に10名のボランティアが尼崎市へ地域の野菜販売に、また、12月16日に17名の社協理事・監事等が、尼崎市の仮設住宅でボランティア活動に参加、少しでも被災者の力づけになればと「餅つき」を行った。

平成8年1月19日、郡内のボランティアコーディネーター連絡会議では、震災ボランティアの今後の計画について協議し、支援活動要請等があればいつでも対応することを、各町社会福祉協議会で確認しあった。

2. これまで取り組んできた支援活動での課題について

「草刈りボランティア」について、ただ「草刈り」の作業をするだけでなく、仮設住宅入居者にも、参加出来る方には一緒にしていただき、話をする機会を設けるなど、交流ができれば良かったのではないかとと思われる。

「仮設住宅改善のための大工ボランティア」については、往復6時間かかるため、事前のきっちりしたニーズ把握と周知がなされていたら、材料・時間の無駄等もなく効率的に行うことができるのではないかと。

草刈り・大工など様々な支援活動のなかで、ただ作業そのものだけでなく、被災者の方々の心の支援が出来るような時間をもっと持つことが必要であると反省し、これからはより被災者との交流・ふれあいに心がけていかなければならないと考えられる。

支援状況

	支援地区名	日 時	支 援 内 容	8年度への課題・展望
八鹿町	明石市高年クラブ連合 会	H7. 10. 27 10:00～16:00	(実施主体：八鹿町老人クラブ連合会) 八鹿町のいきいきドーム(全天候運動場)へ、明石市高年クラブ連合会51名を招待して老人ふれあい大運動会を開催し、輪投げ・ボール運び等を楽しんだ。 八鹿町老人クラブ会員等約500名参加	Vグループのぎくの会が、11月下旬に被災者を招待し、ニュースポーツを通して交流をはかる計画をしている。
	西宮市 枝川・甲東仮設住宅	H7. 9. 4 10:00～16:00	仮設住宅の改善等、大工ボランティアとして12名が参加	一寸した工夫により高齢者などの支援になる活動を計画していきたい。
養父町	西宮市 川添・神祇宮町・ 鳴尾浜・上大市仮設 住宅	H7. 10. 6 10:00～16:00	仮設住宅の改善等、大工ボランティアとして8名が参加	
	神戸市西区 西神第7仮設住宅	H7. 8. 8 10:30～15:30	仮設住宅周辺の草刈り。草刈りボランティアとして16名が参加	8年度の実施を検討中 現地社協との連携が不十分であったので、次回は現地社協と連携を密に行いたい。
大屋町	神戸市西区 西神第7仮設住宅	H7. 10. 26 10:00～15:00	仮設住宅の改善等、大工ボランティアとして15名が参加	
	尼崎市 東七松町仮設住宅	H7. 10. 29 12:00～15:30	地域の野菜販売。ふれあいセンターのボランティアの方と一緒に野菜販売、ボランティアとして10名が参加	
	西宮市老人クラブ連 合会	H7. 11. 6 11:45～15:00	(実施主体：関宮町老人クラブ連合会) 鉢伏高原秋のもみじ狩り。関宮町八子高原へ、西宮市老人クラブ連合会48名を招待し、「氷ノ山太鼓チーム」による歓迎太鼓の演奏や会食後、秋晴れの八子高原を散策した。ボランティアとして16名が参加。	
	尼崎市 大西新町公園仮設住 宅	H7. 12. 16 11:00～15:00	餅付き。仮設住宅、近所の方々と餅を付いたりまるめたり、なごやかに過ごした。ボランティアとして17名が参加	
	淡路島子ども会	H8. 1. 13 13:00～16:00 ～1. 14 8:00～16:00	関宮町八子高原で、12名のボランティアが、淡路島子ども会のスキー指導をした。	
養父郡	神戸市西区 西区Vセンター・ 西神第7仮設住宅	H7. 7. 3 10:30～14:30	支援内容・希望等の調査。郡内のVコーディネーター等6名が参加。プランター植えの花(8箱)を「ふれあいテント」前に設置	
	神戸市西区 西神第7仮設住宅 「ふれあいテン ト」	H7. 7. 14 10:00～10:30	ボランティア活動の支援物資搬入。1名 搬入品＝タオル270枚(7月28日搬入分含む) 雑巾126枚 石鹸1箱 軍手10ダース 長靴4足 雨カッパ2着 雨傘2本	
	神戸市西区 西神第7仮設住宅	H7. 7. 28 11:00～15:15	仮設住宅周辺の草刈り。草刈りボランティアとして郡内より26名が参加した。(希望のあったコスモスの種も届けたが、撒く時期でなかったので冷蔵をお願いしておいた。)	大屋町では15名ぐらいで草刈りを検討中であり、養父町でも草刈り及び交流のできる内容で実施していきたいという計画をもっている。

朝来地区社会福祉連合会

はじめに

昨年1月17日に発生した「阪神・淡路大震災」は、震源地から約150キロ離れた当朝来郡においても激しい揺れにみまわれた。

時間がたつにつれて、兵庫県の南部が打撃を受けていることが判明し、その様子がテレビに放映され続ける中で、阪神間とのつながりが多い当地域では、多くの人が親戚や知人の安否を気遣って阪神方面に車を走らせた。しかし、交通渋滞に巻き込まれて目的地に着けず引き返して来る人もあった。

この緊急事態を知った郡内各町・団体では、早速、義援金の募集や炊き出し、救援物資の募集など地域あげての支援体制を敷いた。個人的にも、多くの人が同じ県民として、飛んでいってお手伝いをしたいとの思いに駆られた。

また、当地域を通過するJR播但線と山陰線及び国道312号線と9号線が、寸断された東西幹線路の迂回ルートになったため、JRの利用者は一時異様なまでにふくれあがり、他地区ナンバーの大型トラックや保冷車が行き交う交通渋滞の日々が続いた。

社協独自の支援活動

被災者の生活が避難所から仮設住宅に移り、被災地がようやく落ち着きはじめた頃、震災直後の行政の指揮下で実施した救援物資の集荷運搬等の緊急援助活動が一段落し、社協独自の支援活動を検討していたところへ県社協から復興支援活動助成の通知があった。

これを受けて、まず、郡内のボランティアコーディネーター等による被災地の状況調査をすることとした。調査地は、県社協のアドバイスを得て、神戸市北区鹿の子台の仮設住宅とし、現地で仮設住宅の入居者に地域の案内図や瓦版の配布、お年寄りへの訪問活動などを行っている「鹿の子台ボランティア連絡会」というグループがあることを知った。7月25日現地に赴き、そのグループの代表の西野さんから話を伺った。

西野さんたちは、自分たちが高齢になった時のことを考え、今行動を起こさねばということ、この地域の福祉のまちづくりを目指して活動されており、大いに共鳴し学ぶところが多かった。

その結果、3年前に開発され、1,200世帯の人々が住むこの地域に、1,800世帯の仮設住宅が建てられているが、交通の便が悪く、近くに高級スーパーが1店あるのみで、仮設住宅の入居者は、買物に非常に不便を感じていることが分かった。

そこで、8月7日、ボランティアセンター運営委員会を開いて支援内容について検討し、「朝来郡で採れた新鮮な野菜を持参して、仮設住宅の方々に提供する」ことに決定し、これを「生鮮野菜お届け便事業」と名付けて、後述のとおり実施したものである。

この事業を通して「鹿の子台ボランティア連絡会」との間に交流が生まれ、9月5日開催した「朝来郡ボランティア交流会」に同連絡会から8名の方々を迎えて、震災とボランティア活動について意見交換をした。そして、この交流会の参加者80名が全員で製作した「巾着袋」計500枚一つ一つに、「大変でしょうが頑張ってください。朝来郡からも応援しています。」とのメッセージを添えて、後日、「鹿の子台ボランティア連絡会」に届けた。

「生鮮野菜お届け便」事業

8月7日、郡ボランティアセンター運営委員会において

- (1) 年内に5回実施する。
- (2) 郡・町社協が実施主体となり、民生委員協議会、老人クラブ連合会に協力を依頼する。
- (3) 住民には、各町毎にチラシで野菜の提供を呼び掛け、現地搬送の前日に集荷場で袋詰めする。
- (4) 売上げ金は、被災地の“まちづくり”に当ててもらうため、現地社協に預託する。

等の基本方針を確認した。郡社協では、現地のボランティアや社協との連絡調整、報道機関からの問い合わせの対応、共通経費の支出等を受け持ち、その他のことについては各町社協でお願いすることとした。

また、現地の皆さんへのお知らせ、販売場所の設定、現地案内等は、「鹿の子台ボランティア連絡会」にお願いし、神戸市北区社協とも連絡を取りながら進めることとした。

9月26日、第1便の和田山町を皮切りに、12月12日の朝来町まで、計5回に渡って実施した。

朝来郡の各世帯から提供された野菜は、かぼちゃ・さつまいも・たまねぎ・じゃがいも・白菜・大根等季節によって様変わりし、その総量は約30.5トンにもなった。

大根、白菜など季節野菜の“即席漬け”等は非常に好評を得、また、朝来町特産の「岩津ネギ」は調理方法も紹介して大変喜ばれた。被災者の方々からは、「有難う、助かります。今度はいつ...」等と心待ちにしていた。

この事業に携わったスタッフは、集荷作業に従事した者を除いても、出荷前日が約300名、当日が100名で、現地鹿の子台の協力ボランティアは40名にもなった。

1袋50円で販売した売上げ金の総額は657,360円で、全額を神戸市北区社協の善意銀行に預託した。

この事業で私たちが得たものは、被災者に大変喜ばれたことはいまでもないが、社協の呼び掛けに対して、各町挙げて多くの住民の協力と行政の支援が得られたこと、青年会議所、地元農協、老人クラブ、民生委員協議会など、各種団体から広範な協力が得られたこと等、“住民の参加と連帯による福祉のまちづくり”をめざす当社協として今後の地域活動に取り組むうえでの大きな自信と

なった。

また、この事業以外にも和田山町社協では歳末の「餅つき大会」に道具持参で3回に渡って参加し、朝来町社協では座ぶとんを、生野町社協では毛糸、山東町社協ではクリスマスリースを届けるなど、それぞれ現地からの要請に引続き応えた。

なお、新年度においても、現地に出かけ、現地の方たちと懇談する等の機会を持ちながら、この「生鮮野菜お届け便事業」を引続いて実施することとしている。



支援状況

朝来地区社会福祉連合会

支援地区名	日 時	支 援 内 容	8年度への課題・展望
袖戸市北区 ・鹿の子台仮設住宅 ・藤原台地区仮設住宅	H7. 9. 26 H7. 10. 31 H7. 11. 30 H7. 12. 6 H7. 12. 12 いずれも前日当地において出荷準備	「生鮮野菜お届け便」事業 当地で採れた野菜を一袋50円で販売し、売上金については、現地社協の善意銀行に預託し、“まちづくり”に当ててもらう。 第1回目和田山町 野菜約6トン 第2回目和田山町 // 約6トン 第3回目山東町 // 約8.5トン 第4回目生野町 // 約4トン 第5回目朝来町 // 約6トン 合 計 約30.5トン 売上金 657,360円 参加者延432名	1 方針 現地被災地関係者との協議を踏まえ ・入居者全体に安価で新鮮な野菜を届けられる。 ・仮設住宅にこもりがちなお年寄りの外出の機会となる。 ・住民のふれあいの場となる。 等から8年度も引き続き実施する。 2 課題 支援先、実施方法、費用の確保については今後検討していく。
・鹿の子台仮設住宅	H7. 12. 9 H7. 12. 10 H7. 12. 1	ふれあいセンター餅つき大会 和田山町道具(杵、うす)持参 同上 同上	
・鹿の子台仮設住宅 ・北区社協	H7. 8～H8. 3	物品の送付 スナック菓子 100箱(地区) 巾着袋 500枚(地区・各町) 座ぶとん100枚(朝来町) クリスマスリース30個(山東町)	
・鹿の子台、藤原台地区	H8. 3. 19	仮設住宅関係者・地元ボランティアとの懇談 内容 今後の支援活動について 参加者 現地 31名 当地 11名	

氷上郡社会福祉連合会

支援活動1

氷上郡社会福祉連合会と氷上郡ボランティア連絡協議会は、神戸市社協の要請を受け、震災後の平成7年1月28日から3月31日まで、中央区にある避難所「八雲老人憩いの家」に毎日出向き、物資の仕分けや、炊き出し等の救援活動を続けてきた。その後、避難所で生活されている方々を丹波に招き、心身のリフレッシュを図ってもらう計画が進み、6月29日「被災者激励交流会」と題して実施した。実施内容は、次のとおりであるが、行き先・昼食のメニュー等調査し、できるだけ希望を取り入れて行程を組んだ。

【支援内容】

避難所の方々14名を丹波に招待し、名所巡り（篠山歴史美術館・柏原のあじさい園・氷上の達身寺等）や地元のボランティアとそば処「ろあん」にて昼食交えながら交流した。

（地元のバスを借り上げ、参加者を送迎した。）

【反省点】

参加者の方々には、喜んで頂けたが、スケジュールに無理があったのか、地元のボランティアとゆっくり交流ができなかったのが残念であった。

支援活動2

兵庫県社会福祉協議会より東灘区の仮設住宅への支援依頼があり、これを受け9月22日郡内の各町社会福祉協議会事務局長が集まり、第1回支援会議を開催し、支援方法等検討する。10月12日氷上郡社会福祉連合会事務局と各町社会福祉協議会事務局長が東灘区役所に出向き、現状を把握した上で、支援先を東灘区魚崎南町にある瀬戸第1仮設住宅に決定した。また、現地に出向き、自治会の役員から現状とこれからの支援に対する要望を聞いた。要望というのは、「仮設の入居者は、第1次で入られた方々ばかりなので、イベントのような支援だと参加者は少ないと思う。できれば、量は少なくてもいいから全世帯に何かを配布してもらえないだろうか...」ということだった。この要望を受け、各町社協ボランティアコーディネーターも交えて、10月23日第2回支援会議を開催、支援内容を検討し、次の事を実施した。



（瀬戸仮設住宅支援時 持って来た地元の野菜を袋詰めしているところ）

【支援内容】

12月17日各町から白菜・大根、手作りの炊き込みごはんをそれぞれを持ち寄り、大型トラックやワゴン車等で現地まで運び、管内6町の社協職員、郡社協職員並びに郡ボランティア連絡協議会役員15名が自治会の役員の協力も得ながら全戸（400世帯）に配布した。なお、野菜（大根・白菜）については、各町社会福祉協議会が広報等を通じて町民に抛出依頼し、炊き込みご飯については、各町で日頃から給食・調理ボランティアとして活動している方々に朝早くから携わってもらい、炊きたてを持っていけるように配慮した。

以上が氷上郡社会福祉連合会としての支援活動である。そのほか、町社協独自の活動を次に紹介する。

【青垣町社会福祉協議会】

- ・9月4日 西宮市仮設住宅を青垣町内の工務店と共に視察
- ・9月29日 西神戸地区仮設住宅を同じく視察
- ・10月3日 西神戸地区仮設住宅でボランティア・事務局20名が住宅改善の大工ボランティア活動を実施
- ・11月9日 西神戸地区仮設住宅でボランティア・事務局16名が住宅改善の大工ボランティア活動を実施

【春日町社会福祉協議会】

- ・9月4日 西宮市内の仮設住宅で10名が住宅改善の大工ボランティア活動を実施
- ・9月27日 西神第7仮設住宅で11名が住宅改善の大工ボランティア活動を実施
- ・10月28日 西神第7仮設住宅で6名が住宅改善の大工ボランティア活動を実施
- ・1月8日～2月6日 町ボランティアセンターにて120名がふれあいセンター友愛訪問のための準備として、手芸作り
- ・2月7日 津名町仮設住宅のふれあいセンターでボランティア20名が炊き出しをして被災者の方々と交流
- ・3月24日 西宮市名塩仮設住宅でボランティア15名がふれあいセンターの友愛訪問活動を実施

【山南町社会福祉協議会】

- ・4月23日 避難所である神戸市中央区八雲老人憩いの家に5名が出向き、入浴ボランティアを実施
- ・5月28日 避難所である神戸市中央区八雲老人憩いの家に5名が出向き、入浴ボランティアを実施
- ・6月17日 避難所である神戸市中央区八雲老人憩いの家に5名が出向き、入浴ボランティアを実施
- ・9月29日 西神第7仮設住宅で6名が住宅改善の大工ボランティア活動を実施
- ・11月12日 西神第1仮設住宅で16名が住宅改善の大工ボランティア活動を実施
- ・3月31日 神戸市東灘区御旅仮設住宅に4名が出向き、花の苗240株をプレゼント

【市島町社会福祉協議会】

- ・7月8日～9日 市島町山の家に被災地の小学生を招待し、14名のボランティアがいちじま自然探検教室（自然の中で遊んだり、冒険をする）を開催
- ・8月5日～6日 市島町へ被災地の小学生を招待し、25名のボランティアがふれあいの集い（魚のつかみ取り大会・七夕祭り・地元の子供たちとランドゴルフ大会・町内史跡巡り）を開催
- ・12月6日 西神第7仮設住宅で11名が住宅改善の大工ボランティア活動を実施

支援状況

氷上郡社会福祉連合会

支援地区名	日 時	支 援 内 容	8年度への課題・展望
神戸市中央区八雲通り 八雲老人憩いの家 (避難所)	6月29日	避難所の方々14名を丹波に招待し、名所巡り（篠山歴史美術館・柏原のあじさい園・氷上の達身寺等）や地元のボランティアとそば処「ろあん」にて昼食交えながら交流した。 (地元のバスを借り上げ、参加者を送迎した。)	
神戸市東灘区魚崎南町 瀬戸第1仮設住宅	10月12日	事務局（各町社協事務局長・郡社協）が現地に行き、自治会の役員の方々と交流し、現状と今後の支援について話し合った。	
神戸市東灘区魚崎南町 瀬戸第14仮設住宅	12月17日	全世帯（400戸）に行き渡るよう郡内6町がそれぞれ白菜・大根・（ボランティアによる）炊き込みごはんを70ずつ持ち寄り、現地には、都内の社協事務局と氷上群ボランティア連絡協議会長の15名が行き、配布した。	第1次で仮設に入居された方々（高齢者や障害者）が多く、イベント支援はあまり好まれない。できるだけ自治会の役員の方と連絡を密にして、今後の支援を考えていきたい。

多紀郡社会福祉連合会

* 支援の取組経過

震災直後、直ちに緊急各町社協事務局長会議を開き、今回の大地震による被災地に多紀郡民あげて支援するため、「兵庫県南部地震救援ボランティア」の登録募集を呼掛チラシと申込書を広く町民に配布するとともに各新聞社に資料配布をし募集を募った。

各町社協、郡社協では登録されたボランティア（個人、グループ）を町、郡ボランティアセンターに登録。各被災地の対策本部等の要請により、組織化すると共に登録者に出動依頼をする。同時に「ボランティア災害共済」に加入する。

登録ボランティア数（個人、団体で1,082名）であった。

* 次に兵庫県南部地震被災者の救援について

この運動展開のきっかけは郡内に避難されている被災者から「郡内で住宅がみづかり1年程借住まい出来ることとなったが、今回の震災で家財一切を失った。一時的に使用出来るガスコンロ、冷蔵庫等、洗濯機等の支援をいただけることは出来ないか」との相談がきっかけで、郡内に一時避難等借住まいされている方々への支援の一方法として、耐久消費財の提供を各新聞社の協力のもと、広く住民に提供登録を呼びかけた。

受入れは郡、町善意銀行に登録。提供は被災者及び、市町対策本部からの要請で、各善意銀行が被災世帯へ払います。

登録者42名（郡内、大阪市、姫路市、西脇市、三田市、氷上郡、等）であった。

* 現地での支援活動

兵庫県社会福祉協議会より東灘区の支援依頼があり、これを受け9月21日郡社協事務局が東灘区役所の社協事務局に出向き、社協職員、東灘地域助け合いネットワーク代表幹事と仮設住宅の現状と被災者のニーズについて話し合った。

支援活動で望まれるものは、一人暮らし老人が多く食事の準備に困っておりまた、寂しさを癒す上でも月1回でもいいので簡単な弁当形式でいいので会食会を継続的希望があった。また、青空市の継続的希望もあった。この要望を受け、各町事務局長、ボランティアコーディネーターにより被災地への支援活動についての打合せ会を開き、10月15日、被災地支援活動「ふるさと丹波の味覚と秋祭り」を実施することになった。今回の事業を契機として、今後継続して「青空市」、「ふれあい会食会」等を実施する。

(支援内容)

郡社協と各町4町の社協、ボランティア計31名により被災地の仮設住宅の方々に、丹波の秋の味覚（丹波粟、黒豆の枝豆、蒸し芋、柿、丹波茶、山菜おこわ、等）の試食コーナー、即売コーナー、野に咲く草花自由にお持ち帰りコーナー、ススキによるフクロウ作り、又、秋祭りとして、日吉神社神楽舞いをともに楽しみ被災地との交流を深めた。

以上が多紀郡社会福祉連合会としての支援活動である。次に各町社会福祉協議会の活動状況を報告する。

【篠山町社会福祉協議会】

3月5日	支援内容	一人暮らし高齢者との“ふれあい会食会”とレクリエーション（一人暮らし高齢者40名参加）
	場 所	六甲アイランド第6仮設ふれあいセンター
	参加者	ボランティア7名、社協職員4名

【西紀町社会福祉協議会】

12月11日	支援内容	一人暮らし高齢者との“ふれあい会食会”とレクリエーション（一人暮らし高齢者40名参加）
	場 所	六甲アイランド第3仮設ふれあいセンター
	参加者	ボランティア10名、社協職員4名
10月3日	支援内容	伊丹市仮設住宅入居者を招待 ゆったり温泉入浴、会食会、レクリエーション等地元のボランティアとの交流。
	場 所	大谷にしき荘
	参加者	西紀町ボランティア連絡協議会メンバー、社協職員
2月14日	支援内容	長野県内の日本画グループによる寄贈絵画70点（西紀町出身の女性）を一人暮らし老人に届ける
	場 所	津名郡津名町志筑、新島の仮設団地

参加者 西紀町ボランティア連絡協議会メンバー、社協職員

【丹南町社会福祉協議会】

1月25日 支援内容 一人暮らし高齢者との“ふれあい会食会”とレクリエーション（一人暮らし高齢者50名参加）
ふれあい野菜市
場 所 六甲アイランド第3仮設ふれあいセンター
参加者 ボランティア12名、社協職員3名

【今田町社会福祉協議会】

3月4日 支援内容 一人暮らし高齢者との“ふれあい会食会”とレクリエーション（一人暮らし高齢者40名参加）
場 所 六甲アイランド第3仮設ふれあいセンター
参加者 ボランティア11名、社協職員4名

支援状況

多紀郡社会福祉連合会

支援地区名	日 時	支 援 内 容	8年度への課題・展望
神戸市東灘区	9月21日	郡社協による仮設住宅の現状・被災者のニーズ把握と支援活動についての話し合い。	
神戸市東灘区 深江浜	10月15日	「ふるさと丹波の味覚と秋祭り」 各町社協職員、郡社協、ボランティア31名により200世帯（約600名）を対象に行った。 ・丹波の味覚試食コーナー 丹波黒豆の枝豆、丹波栗（ゆで栗、焼栗）丹波茶、蒸し芋（サツマ芋）、山菜おこわ、柿、等 ・即売コーナー 丹波黒豆の枝豆、丹波栗、丹波茶、サツマ芋 ・手作りコーナー ススキによるフクロウ作り ・野に咲く草花自由にお持帰りコーナー ・秋祭り 山南町井原秋祭り保存会のメンバーによる（日吉神社神楽舞い）	今回の事業を契機として8年度も月一回各町社協の持ち回りにより「ふれあい会食会」等仮設住民との調整のうえ各町社協で実施。